

2012年度
事業報告書

2012年4月 1日から
2013年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

項目	頁
1. 組織体制	1
2. 募金活動	1
3. 総務関係事項	2
4. 施設管理	2
5. 会員関係	2
6. プログラム活動	7
7. 国際文化会館の運営	28

I. 組織体制

A. 理事会・評議員会

2012年度中に開催された理事会・評議員会は、以下の通りである。

第1回理事会	2012年5月23日開催
第2回理事会	2013年3月19日開催
第3回理事会	2013年3月25日開催

第1回評議員会 2012年6月14日開催

B. 理事・監事・評議員

2012年度中の理事・監事・評議員の異動は、以下の通りである。

【理事】

(死去) 高橋 潤二郎 (2013年3月22日)

2012年度末現在の役員数は、理事14名、監事2名、評議員20名である。

C. 職員数

2012年度中新規採用者はなく、1名の職員が退職した。2012年度末現在の職員数は12名（男子5名、女子7名）である。

II. 募金活動

A. 助成金・寄付金

2012年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。

国際交流基金	16,035千円（千円未満四捨五入）
日米国際金融シンポジウム	14,750
ハーバード・ロースクール	8,243
日米友好基金	5,703
MRAハウス	2,900
渋沢栄一記念財団	1,300
東京倶楽部	1,000

霞会館	300
米国大使館	168
入会時寄付金	8,700
諸寄附	3,848

III. 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」(2008年設立)に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。東日本大震災の影響もあり、計画の具体化に停滞がみられたが、昨年末、事業受託者に住友不動産(株)が加わり、事業推進力に弾みがついてきたこともあって、秋口に向けて基本計画修正案の策定が進んでいる。

IV. 施設管理

かねてより経年劣化が目立った、西館の外壁ならびにテラスの補修工事を7月～9月にかけて行い、劣化に加えて損傷が目立った駐車場の外灯の一部を8月に交換した。また9月にインターネット環境を、無線LANによる研究個室を含む全館対応に充実させ、11月には正面入口の石垣に、表示サインを増設した。さらに、業務用端末のOS(Windows XP)がサポート期限の終了を迎えるため、12月～2013年1月にかけて館内のサーバーおよび端末の更新を行い、合わせて対外発信機能の強化、認知度アップを図るため、ホームページの全面リニューアルを行った。その結果2012年12月末に対し、年度末現在のウェブサイト・アクセス件数は2倍以上となり、一定の効果が挙がりつつある。

V. 会員関係

A. 個人会員

2012年度は、新規入会が80名(日本人63名、その他17名)あり、昨年度比12名減少(日本人9名減、その他3名減)した。退会届提出、

死亡、会費滞納による退会者は162名（日本人98名、その他64名）で、昨年度比26名減少（日本人20名減、その他6名減）した。これにより全体として82名（日本人35名、その他47名）の会員数の減少となり、2013年3月31日現在、日本人会員2,074名とその他40カ国（地域）の会員913名の合計は2,987名となった。

	日本	その他	小計	合計
新入会員	63	17		80
退会	44	23	67	
死亡	43	20	63	
会費滞納	11	21	32	
小計	98	64		162
増減	-35	-47		-82

B. 法人会員

2012年度は、新規入会が9法人9口で、昨年度比6法人6口増となったが、一方で退会は16法人24口あり、これにより法人会員数は昨年度比7法人15口減少し、2013年3月31日現在、合計182法人217口となった。

	法人数	口数	昨年度比	
5口 法人	1	5	0	
4口 "	1	4	0	
3口 "	3	9	-3	(-9口)
2口 "	22	44	-2	(-4口)
1口 "	155	155	-2	(-2口)
計	182	217	-7	(-15口)

C. 優待会員

優待会員は会員の種類から廃止されているため、現会員の離任による後任の登録はない。2013年3月31日現在、優待会員は1名となっている。

D. 図書会員

新規入会者は32名、退会者は25名で、2013年3月31日現在、図書

会員は 18 カ国 124 名となった。

E. 総収入

2012 年度の図書会費を含む会費収入は、¥65,680,398 で昨年度比 ¥1,173,895 減少し、また入会時寄付金収入は ¥8,700,000 で昨年度比 ¥1,500,000 減少した。法人会費収入は ¥35,334,560 で昨年度比 ¥2,705,940 減少した。

	2012 年実績	予算	2011 年実績
個人会員費	¥65,680,398	¥65,000,000	¥66,854,293
入会時寄付金	8,700,000	10,000,000	10,200,000
法人会員費	35,334,560	40,000,000	38,040,500
合計	<u>¥109,714,958</u>	<u>¥115,000,000</u>	<u>¥115,094,793</u>

F. 国際文化会館創立 60 周年記念晩餐会

2012 年度は、会館が創立 60 周年を迎えるにあたり、これを記念した晩餐会を 11 月 13 日、14 日の両日にわたり開催した。特別ゲストとして 13 日にはドナルド・キーン氏、14 日には故十二代目市川團十郎丈をお招きし、それぞれ会館との思い出や天覧歌舞伎についてお話しいただいた。

会員の皆様および各国大使などのご招待客が集い、両日とも交歓のひとときをお楽しみいただいた。

G. 新入会員懇談会

2012 年度の新入会員懇談会は、9 月 26 日に樺山・松本ルームで開催され、23 名の会員が出席した。

個人会員国籍別統計

(2013年3月31日現在)

国籍／地域	計 2012年 3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	計 2013年 3月31日
オーストラリア	29	0	1	0	0	28
オーストリア	4	0	0	0	0	4
ベルギー	3	0	0	0	0	3
ブラジル	1	0	0	0	1	0
カナダ	37	1	1	1	2	34
中華人民共和国	3	0	0	0	0	3
デンマーク	2	0	0	0	0	2
エクアドル	1	0	0	0	0	1
エジプト	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	0	3
フランス	11	0	0	0	1	10
ドイツ	31	1	0	0	1	31
ガーナ	1	0	0	0	0	1
香港	0	1	0	0	0	1
インド	7	1	1	0	0	7
インドネシア	3	0	0	0	0	3
アイルランド	6	0	0	0	0	6
イスラエル	2	0	0	0	0	2
イタリア	7	0	0	0	0	7
日本	2,109	63	44	43	11	2,074
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	21	1	0	0	0	22
マレーシア	4	0	0	1	0	3
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	8	0	0	0	0	8
ニュージーランド	4	0	0	1	0	3
パキスタン	1	0	0	0	0	1
フィリピン	6	0	2	0	0	4
ボルトガル	1	0	0	0	0	1
ロシア	2	0	0	0	0	2
シンガポール	6	0	0	0	0	6
南アフリカ	0	1	0	0	0	1
スペイン	1	0	0	0	0	1
スウェーデン	14	1	1	0	0	14
スイス	6	0	0	0	0	6
台湾	4	0	0	0	1	3
タイ	10	0	0	0	0	10
トルコ	4	0	0	0	0	4
イギリス	59	1	5	0	2	53
アメリカ	654	9	12	17	13	621
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,109	63	44	43	11	2,074
その他	960	17	23	20	21	913
合計	3,069	80	67	63	32	2,987

法人会員分布
(2013年3月31日現在)

県／国	5口	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉				1	0	1	2
東京	1	1	2	19	134	157	187
神奈川					1	1	1
愛知					1	1	1
大阪			1	2	5	8	12
広島					1	1	1
福岡					1	1	1
ドイツ					1	1	1
香港					1	1	1
オランダ					1	1	1
イギリス					1	1	1
アメリカ					8	8	8
合計							
法人数	1	1	3	22	155	182	
口数	5	4	9	44	155		217

VI. プログラム活動

2012年度は、国際文化会館創立60周年の年であったため、通常のプログラムに加え、いくつかの記念プログラムを実施した。

A. 60周年記念プログラム

1. 写真展「戦後日本の文化交流史の中の国際文化会館」

戦後60年にわたり、文化的背景を異にした知識人が集い、語り、思索し、そして創造する、知的活動の拠点としての場を提供してきた国際文化会館の活動を振り返る写真展を開催した。

本写真展は、急速に進むグローバル化に伴い、日本を取り巻く周辺環境が変化し、国際文化交流活動の担い手や方法論も、多様かつ複雑になりつつある状況を背景として、国際関係の中の文化や知的交流の役割を再考する一助となることを目的とした。国際文化会館だけでなく、関係の深い文化交流団体の写真も含め、約70点を展示した。

開催期間：2012年9月1日～11月30日

開催場所：本館ロビー

2. 連続シンポジウム「世界での日本の立ち位置」

グローバル化が進展する今日、日本が進むべき方向性について考える連続シンポジウム（全6回）を開催した。中国の台頭、そして東南アジアをふくむ新興諸国が勢いを増す中で、右肩上がりの成長に限界がみえてきた日本の国際社会における立ち位置は、これからどのようなものかを参加者ととともに考える機会とした。

第1部（全2回）は、対外的に日本がたどってきた近年の歴史と、現在の国際社会における日本の立ち位置について考えた。第2部（全4回）では、米国、中国、韓国、東南アジアから、国際的に活躍する有識者を講師に迎え、世界が日本をこれまでどのように見てきて、これから日本に何を期待するのかをお話しいただいた。

各回とも、講演の後には2名のディスカッサントからコメントをいただき、さまざまな視点から世界での日本の立ち位置について検討した。

本シンポジウムの内容は、2013年7月に岩波書店より刊行する予定である。

回	開催日	タイトル	講師・ディスカッサント
第1部			
第1回	9月11日	日本にとって1930年代が意味するものとは何か	講師:加藤 陽子/東京大学大学院人文社会科学系研究科教授 ディスカッサント: 佐藤 卓己/京都大学大学院教育学研究科准教授 森山 優/静岡県立大学国際関係学部准教授
第2回	9月25日	戦後日本として—その展開とゆくえ	講師:五百旗頭 真/前防衛大学校長 ディスカッサント: チャールズ・D・レイク II/米日経済協議会会長 田所 昌幸/慶應義塾大学法学部教授
第2部			
第3回	10月3日	日本の課題と展望: 東南アジアからの視点	講師:トミー・コー/シンガポール国立大学政策研究所会長 ディスカッサント: 白石 隆/政策大学院大学学長 田中 均/日本総合研究所国際戦略研究所理事長
第4回	10月23日	不安定な三角関係: 日中の間の韓国	講師:韓 昇洲/元韓国外務部長官; 元国連事務総長キプロス特別代表 ディスカッサント: 李 鍾元/早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 添谷 芳秀/慶應義塾大学東アジア研究所所長
第5回	11月15日	アメリカの世紀 1945-2015 における日米関係	講師:エズラ・ヴォーゲル/ハーバード大学名誉教授 ディスカッサント: 渡辺 昭夫/東京大学名誉教授 北岡 伸一/政策研究大学院大学教授

第6回	2013年 1月22日	世界での日本の立ち 位置：中国の視点か ら	講師：王 緝思／北京大学国際関係学院 院長 ディスカッサント： 毛里 和子／早稲田大学名誉教授 宮本 雄二／前駐中国大使
-----	----------------	-----------------------------	--

3. ガーデンコンサート「越境：田中泯、国際文化会館の庭園を踊る」

ジャンルを超えて国際的に活躍するダンサーの田中泯氏が、さまざまな交流と越境の場に立ち会ってきた会館の庭園を舞台として、文化のクロスロードとしての舞を踊り、自らの体で表現した。

開催日	タイトル	出演者
10月27日	越境：田中泯、国際文化会館の庭園を踊る	田中 泯（ダンサー）

B. 通常プログラム

1. 多文化間の知的対話の促進

21世紀に入り、より複雑化してきた諸課題を見据え、異なる文化・社会的背景や、研究者、ジャーナリスト、NGO/NPOのリーダー、作家、芸術家といった専門分野を超え、人文・社会・自然科学の諸分野をつなぐような思索と対話の場を創出し、領域横断的かつ複眼的、重層的な知的ネットワークの形成を図ることを目的として実施した。

a. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム（ALFP）

1996年度から国際交流基金と共催事業として実施してきた「アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム（ALFP）」は、2011年度までの16年間に約100名のフェローを招聘してきた。2012年度はその蓄積をふまえ、これまでのフェローから10数名を再招聘し、「アジアの市民社会～今、これから」と題して、今後のアジアにおける市民社会について考える特別シンポジウムを開催した。

開催日	発表者など
2013年 2月6日	パネル1 「アジアの市民社会と新しい政治」
	発表者： ホセ・ルイス・マーティン・C・ガスコン（フィリピン）／フィリピン政府大統領府政務担当次官 イミティアズ・グル（パキスタン）／ジャーナリスト、安全保障研究センター常務理事 ヴィノード・ライナ（インド）／発展途上社会研究センター客員シニアフェロー コメンテーター： 黄 平（ファンピン／中国）／中国社会科学院アメリカ研究所所長 モデレーター：鈴木 佑司／法政大学法学部教授
	パネル2 「3.11 後の日本を通じて考えるアジア・世界・人々」
	発表者： 李 時載（イ・シジエ／韓国）／韓国環境運動連合共同代表 黄 建生（ファン・ジャンシェン／中国）／雲南民族大学教授 大橋 正明／国際協力 NGO センター理事長 コメンテーター： ダイアナ・ウォン（マレーシア）／元東南アジア研究所副所長 モデレーター：足羽 與志子／一橋大学大学院社会学研究科教授
	総括パネル 「ALFP の可能性と課題: アジアの市民社会は次の 10 年で何ができるのか？」
	発表者： グナワン・モハマッド（インドネシア）／Tempo 誌創始者 チャンドラ・キショール・ラル（ネパール）／コラムニスト フォージア・サイド（パキスタン）／NGO メヘルガル所長 マルコ・クスマウィジャヤ（インドネシア）／都市研究ルジャックセンター所長 モデレーター：竹中 千春／立教大学法学部教授

さらに2012年度は、ALFPの認知度を高め、フェローが発信するためのプラットフォームをつくることを目的として、「タスク・グループ・ワークショップ」を7月にインドネシアにて開催した。このワークショ

ップには、これまでのフェロー数名が参加しており、今後のプログラム強化のための意見聴取と意見交換を行った。また、プログラムの内容を効果的に伝えるために、本プログラム専用のウェブサイトを立ち上げ、掲載内容の充実をはかった。(http://alfpnetwork.net/)

b. 牛場記念フェローシップ

本プログラムは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施しているもので、世界に今なお残るさまざまな分断状況を乗り越え、ヒューマニズム的観点から問題提起をしている世界の傑出した知識人を招聘し、内外の有識者間の対話促進を目的としている。

2012年度は新たなフェローの招聘はなく、イタリアの哲学者、アントニオ・ネグリ氏の再招聘に向けた準備を行った。※ネグリ氏は、2013年4月3日より10日間の来日。

c. 日印交流事業

(1) 日印対話プログラム Japan-India Distinguished Visitors Program

2012年は日印平和条約の締結60周年を迎えることから、国際交流基金と連携して、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するため、新たな人物招聘事業「Japan-India Distinguished Visitors Program」を立ちあげた。

本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間1~2名選出し、1週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関の訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行うものである。

第1回目のフェローとして、インドの大手英字新聞『ザ・ヒンドゥー(The Hindu)紙』の編集長、シダールタ・ヴァラダラージャン氏を招聘した。ヴァラダラージャン氏は2013年3月下旬に来日、滞日中、国際文化会館での講演の他、日本外国特派員協会(FCCJ)での講演、日本のジャーナリストや研究者との対話に参加した。

開催日	タイトル	講師・モデレーター
2013年 3月28日	アジアにおけるインドの対外政策 —印中米の三国関係と日本	講師：シダールタ・ヴァラダラージャン モデレーター：堀本 武功／京都大学大学院 AA 地域研究研究科特任教授

(2) ビジネスパーソンのための現代インド講座「インドをよく知る7日間」

日本企業のインド進出が加速度的に進んでいるが、進出時は華々しく報道される一方、事業が軌道に乗らず、撤退を余儀なくされた例はほとんど報道されない。失敗にはさまざまな原因が考えられるが、突き詰めれば、そのほとんどがインド社会や文化、そこで暮らす人々への理解不足に起因するのではないかと考えられる。こうした問題認識に基づき、財務や労務などの実務上のノウハウではなく、インドで仕事をするビジネスパーソンが必ずおさえておくべきポイントを紹介しながら、政治、経済、社会、文化など、より大きな視点で、急速に変化する現代インドをとらえるためのセミナー（全7回）を開催した。セミナーには、日常業務の中でさまざまな形でインドに携わるビジネスパーソンが毎回、多数参加した。各回の講師とテーマは、以下の通りである。

モデレーター：山田 剛／公益社団法人日本経済研究センター 主任研究員
近藤 正規／国際基督教大学教養学部 上級准教授

回	開催日	テーマ	講師
第1回	9月5日	世界の中のインドと日印関係	榊原 英資／財団法人インド経済研究所理事長、青山学院大学教授
第2回	9月12日	インド・ビジネスは— Acting is believingで！	島田 卓／インド・ビジネス・センター代表取締役会長
第3回	9月19日	『インド式』民主主義のおもしろさ～代表・対立・交渉・合意	竹中 千春／立教大学法学部教授
第4回	9月27日	現代インドの社会問題	藤井 毅／東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授地域・国際コース：ヒンディー語
第5回	10月4日	インド経済：その強みと今後を探る	小島 眞／拓殖大学国際学部教授

第6回	10月10日	日印パートナーシップとアジアのつながり	サンジーヴ・スィンハ／株式会社サンアンドサンズアドバイザーズ 代表取締役社長
第7回	10月18日	インドの可能性	堀本 武功／京都大学大学院AA地域研究研究科 特任教授

(3) 日印国交樹立60周年記念コンサート「永遠に新しい歌」

第1部は、インドの詩聖として知られ、アジアで初めてノーベル文学賞を受賞した詩人、ラビンドラナート・タゴール（1861-1941）の代表作『ギターンジャリ』の朗読と演奏を上演。第2部では、カルカッタ出身の若手打楽器奏者、アリフ・カーン氏によるタブラと、日本人サントゥール奏者、宮下節雄のパフォーマンスを上演した。

開催日	タイトル	出演者
5月11日	永遠に新しい歌 タゴール・ソングとタブラの タベ	<第1部> 歌と朗読：ケイコ・チャトパディヤ、サムドラ・ドゥターグ・グプタ、シリーヨシ・モンダル、スティプタ・ロイチャウドリー、タニシタ・ロイチャウドリー、ラシミ・グプタ、リタ・カー 伝統舞踊バラタナティヤム：エミ・マユーリ、小川 洋子、小川 菜津子、大内田 香織 <第2部> アリフ・カーン（タブラ）、宮下 節雄（サントゥール）

2. 交流の主体となる人材の発掘と育成

創造的な知的対話を行うためには、自己の社会や文化の基盤の上に立ち、広く総合的な視野を身につけた主体的な対話能力を持つ人材が必要である。こうした人材の発掘と育成に資する、効果的で地道なプログラムを実施した。

a. 教育プログラム

(1) 新渡戸国際塾

新渡戸国際塾は、企業、NGO/NPO、官公庁、研究機関などの若手職

員を対象に、国内外の国際的な現場で活躍できる人材の育成を目的に実施しているもので、2012年度に第5期を迎えた。塾長は明石康（国際文化会館理事長）、コーディネーターは渡辺靖氏（慶應義塾大学 SFC 教授）がつとめ、6月から12月まで全13回の講義を行った。

第5期は、書類選考（願書・小論文）と面接を経て、企業（金融、メーカーなど）、国際交流・協力団体、政府機関などから14名の塾生（平均年齢29.3歳）が選抜された。全13回のうち6回は一般公開した。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と、財団法人 MRA ハウスの助成を受けて実施している。

2012年度のカリキュラムは、以下の通りである。

回	日時	テーマ	講師など
第1回	6月16日	真に求められる国際的な人材の要件とは（公開）	明石 康／新渡戸国際塾塾長
特別回	6月23日 6月27日 7月4日	コミュニケーション・スキル養成講座 「国際コミュニケーションへの道」	ジョセフ・ショールズ／NPO法人異文化教育研究所代表
第2回	6月23日	4期生によるオリエンテーション	4期生
第3回	7月7日 7月8日	小布施セッション参加、町づくりは人づくり：小布施から学ぶリーダーシップ（スタディーツアー）	隈 研吾／建築家（小布施セッションにて） 市村 次夫／小布施堂、耕一市村酒造社長
第4回	7月21日	デモクラシーをどう擁護するか（公開）	猪木 武徳／青山学院大学特任教授
第5回	8月4日～5日 三浦海岸合宿	巨視的な視点で考える2030年の世界	渡辺 靖／新渡戸国際塾コーディネーター
第6回	8月25日	ウーマノミクス：ダイバーシティの力	キャシー松井／ゴールドマンサックス証券チーフ日本株ストラテジスト

		(公開)	
第7回	9月8日 於：渋沢史料館	Shibusawa Eiichi and His World	渋沢 雅英／公益財団法人渋沢栄一記念財団理事長
第8回	9月22日	在京外国人とのディスカッション	4期生
第9回	10月6日	途上国支援という仕事（公開）	中村 俊裕／米国 NPO 法人コペルニク共同創設者兼 CEO
第10回	10月21日	4期生による企画	
第11回	11月3日	日本長寿企業の国際性（公開）	船橋 晴雄／シリウスインスティテュート株式会社代表取締役
第12回	11月17日	『海のことは森に聞け』コトの本質に迫るには（公開）	畠山 重篤／NPO 法人森は海の恋人理事長
第13回	12月1日	修了式	

(2) English Communication Seminar for Global Leaders

本セミナーは、企業や官公庁、研究機関などで国際業務に携わる人、ならびに国際業務を志す人を対象に、英語による高度なコミュニケーション力を養成することを目的として実施している。参加者は、国際的に活躍するリーダーとのラウンドテーブルやディスカッションと、そのための訓練を通じて、英語でリーダーシップを発揮するために必要なスキル（ディスカッションのファシリテーション、効果的な質問、講師紹介、簡潔かつ中身の濃い自己紹介など）を身につける。

1回のシリーズは全5回のセミナー（ディスカッションの練習3回、特別講師とのラウンドテーブル・ディスカッション、DVDを使った評価セッション）で構成。コーディネーター兼講師は、NPO 法人異文化教育研究所代表のジョセフ・ショールズ氏。2012年度は、カレン・ヒル・アントン氏を特別講師に招いて開催した（2013年3月5、8、13、16、19日）。6～7月は、新渡戸国際塾塾生を対象に「国際コミュニケーションへの道」と題し、本セミナーを実施した。

(3) 第三回日本専門家ワークショップ（担当：図書室）

国立国会図書館との共催で2010年度から「日本専門家ワークショップ」を実施してきたが、2012年度は最終年度事業として、これまでの成果の検証、国内外の関係団体との連携の強化、今後の海外における日本専門家支援に関する意見の交換を目的とした会議を開催した。

会議には、過去2年間の本ワークショップの参加者代表、海外の日本研究団体関係者（日本研究者ならびに日本情報専門家）、および国内の専門機関関係者などが出席し、各国の日本専門家育成事業の事例報告や討議を行った。初日は会館で、2日目は国立国会図書館でシンポジウムを開催した。会議とシンポジウムの詳細は、以下の通りである。

➤ 運営委員会

座長 樺山 紘一／印刷博物館館長

委員 ロバート・キャンベル／東京大学比較文学比較文化研究室教授

スヴェン・サーラ／上智大学国際教養学部准教授

小出 いずみ／渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長

開催日	テーマ、発表者など
専門家会議「日本専門家育成戦略会議」	
2013年 2月19日	【セッション1】日本専門家の育成事業における現在の課題 司会：樺山紘一 【セッション2】今後の日本専門家の育成事業に関して 司会：スヴェン・サーラ、小出 いずみ
シンポジウム「なぜ今、海外日本研究支援か？」	
2013年 2月20日	基調講演「なぜ今、海外日本研究支援か？」 講演者：樺山 紘一 成果紹介(1)「日本専門家ワークショップとは何か？」 モデレーター：スヴェン・サーラ、小出 いずみ 報告者：ウルズラ・フラッヘ／ベルリン国立図書館東アジア部日本 専門家 八田 綾子／モナシュ大学図書館日本研究司書 現状報告「海外日本研究支援の現状と課題」 報告者：清水 順一／国際交流基金日本研究・知的交流部長 江上 敏哲／国際日本文化研究センター情報管理施設資料

	<p>課資料利用係長 林 理恵／国際文化会館図書室長 佐藤 従子／国立国会図書館総務部主任参事</p> <p>成果紹介(2)「日本専門家育成戦略会議について」 報告者：スヴェン・サーラ、小出 いずみ</p> <p>座談会「海外日本研究支援は今後どうあるべきか」 パネリスト： 樺山 紘一 小松 和彦／国際日本文化研究センター所長 ハラルド・フース／ハイデルベルグ大学教授</p>
--	---

b. 諸外国団体との連携・協力プログラム

(1) 日米芸術家交換プログラム（日米友好基金 他）

米国の芸術家 5 名が来日し、約 3 カ月間（2011 年度までは 5 カ月間）、日本の芸術家との交流を深めるプログラムで、日米友好基金（Japan-United States Friendship Commission）が主催し、会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978 年より実施し、具体的には専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2012 年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

- デイビッド・ブリック David Brick／振付家（2012 年 5 月～ 3 カ月）
- ロン・ヘンダーソン Ron Henderson／景観設計家（2012 年 2 月～ 3 カ月）
- ジェイソン・カーン Jason Kahn／作曲家（2012 年 7 月～ 3 カ月）
- シンイチ・イオヴァ・コガ Shinichi Iova-Koga／ダンサー・振付家（2012 年 5 月～ 3 カ月）
- ブライアン・ターナー Brian Turner／作家（2012 年 5 月～ 3 カ月）

2011 年度のフェローであるグレッグ・ハーベク氏とシェイ・ヤングブラッド氏は、2011 年 3 月 11 日の震災後に帰国したが、2012 年度に再来日し、予定していた残りのフェローシップを修了した。

- グレッグ・ハーベク Greg Hrbek／作家（2012 年 4 月～8 月）
- シェイ・ヤングブラッド Shay Youngblood／作家、ビジュアルアーティスト（2012 年 3 月～6 月）

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJ アーティスト・フォーラム (略称 AF)」(助成：日米友好基金) を不定期に開催した。2012 年度は以下の通り、6 回のフォーラムを開催した。

開催日	タイトル	出演者・講師など
5 月 23 日	「知ること」の歌	演奏：永井 健太 (ギター)、田中 悠美子 (太棹三味線)、きむら みか (歌)、クリストファー 遙盟 (尺八)
6 月 15 日	欲望の重力：桜の下の空間と文化	スピーカー：ロン・ヘンダーソン
6 月 25 日	目的地と出発点—三人のアメリカ人作家と日本	スピーカー：シェイ・ヤングブラッド (作家)、グレッグ・ハーベク (作家)、ブライアン・ターナー (詩人)
8 月 9 日	島：瀬戸内海への舞踏的礼讃、空間の感覚と日常の輝き	作：ディヴィッド・ブリック、松島 麻衣子、参加パフォーマー
10 月 12 日	「バー青山」の残響	出演：ジェイソン・カーン (エレクトロニクス)、秋山 徹次 (ギター)、中村 としまる (ノー・インプット・ミキシングボード)
2013 年 3 月 4 日	ドキュメンタリー映画ジャパン・プレミア夢を生きる—テイラー・アンダーソン、津波の犠牲となった米国人英語教師	監督：レジー・ライフ (1989 年度日米芸術家交換プログラムフェロー)

(2) 日米国際金融シンポジウム (ハーバード・ロースクール)

会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム (PIFS) との共催で、日米国際金融シンポジウム「21 世紀金融システムの構築：日本と米国にとっての課題」を開催している。本シンポジウムは、毎年、日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行う。

第 15 回シンポジウムは、10 月 26 日～28 日、軽井沢プリンスホテル（長野県）で開催し、日米から約 130 名が参加、以下の 3 つのテーマについて討議した。

1. ユーロ危機の国際金融に与える影響
2. 危機後の銀行システムの調整を巡る主要課題－レバレッジの縮小、不良債権の再編・処分、資本市場の役割の拡大
3. 財政の持続可能性の回復－実行可能な戦略とは？そして、戦略は各国別対応でよいか、国際協調の必要性は？

3. 知的交流に関する情報発信と社会貢献

会館の知的交流事業とその成果を広く一般に周知、共有し、国際理解の促進をはかることを目的として、多様なパブリック・プログラムの開催や、出版を含めた情報発信を行う。

a. アイハウス・パブリック・プログラム

(1) アイハウス・ランチタイム・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーなテーマについて、わかりやすく解説いただく時事講演会である。

2012 年度の開催は、以下の通りである。

開催日	テーマ	講師
4 月 12 日	ミャンマーの民主化と変わる経済のゆくえ～日本とアジアへの影響を考える～	工藤 年博／JETRO アジア経済研究所 東南アジア II 研究グループ研究グループ長
6 月 18 日	ブータンから世界に広がる GNH ～国民総幸福（GNH）は日本社会に適用できるのか～	草郷 孝好（関西大学社会学部教授） （ <i>IHJ Bulletin</i> , Vol. 32, No. 2, 2012、 『国際文化会館会報』Vol. 23、No.2、 2012 に掲載）
2013 年 2 月 26 日	『イスラーム金融』から理解するイスラーム文化	櫻井 秀子／中央大学総合政策学部教授

(2) japan@ihj

「日本理解の促進」を共通項に開催する講演会で、会館がこれまで築いてきたアカデミズム、ジャーナリズム、アート、ビジネスなどにおける内外の専門家の協力のもとに実施している。いずれの講演も基本的には通訳をつけずに英語で行うことが特徴となっている。

2012年度の開催は、以下の通りである。

開催日	テーマ	講師
4月18日	北朝鮮レポート：大きな変動は起こりうるのか？－今後の日朝関係への影響－	ロバート・S・ポイントン／ニューヨーク大学教授 司会：和田 春樹／東京大学名誉教授
7月20日	新たな独占の時代における世界産業システム：東日本大震災からの教訓	バリー・リン／ニュー・アメリカ財団ディレクター 司会：岡崎 哲二／東京大学大学院経済研究科教授
9月7日	夢の風景：日本と外国の接点としての軽井沢	トム・ハール／写真家
9月21日	夏目漱石の未完の作『明暗』をめぐるジョン・ネイスンと水村美苗の対談	ジョン・ネイスン／カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校教授 水村 美苗／作家
2013年 1月11日	明治期のヨーロッパと日本を繋ぐ：エドアルド・キヨッソーネと日本美術	ドナテッラ・ファイッラ／エドアルド・キヨッソーネ東洋美術館館長 司会：西田 宏子／根津美術館副館長

(3) その他

A) 特別シンポジウム「災害と言葉、そして言葉と災害」

日本国際文化学会（共催：東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター、青山学院大学総合文化政策学部）の協力により、特別シンポジウム「災害と言葉、言葉と災害」を開催した。

シンポジウムは、「震災後の言葉」という、3.11後の「文化」を主題に、信頼と情報流通の側面からの東日本大震災と日本の言論空間、3.11後の文学の言葉の存在根拠、そして、障害学研究の視点からの震災に対する言葉のあり方への問題提起など、活発な議論を行った。

開催日	テーマ	パネリストなど
7月7日	「災害と言葉、そして言葉と災害」	パネリスト： 東 浩紀／早稲田大学文学学術院教授 平野 啓一郎／作家 星加 良司／東京大学バリアフリー教育開発研究センター専任講師 モデレーター：川村 湊／法政大学教授、文芸評論家 コーディネーター：白石 さや／東京大学教育学部教授

B) 特別講演「ボーダーレス世界における人文学の役割」

2007年度の牛場記念フェローシップで日本に招聘した、コロンビア大学ユニバーシティー・プロフェッサーのガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授が、2012年度京都賞（稲盛財団主催）を受賞し、再来日された機会を生かして、稲盛財団の協力で講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
11月16日	ボーダーレス世界における人文学の役割	ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク／コロンビア大学ユニバーシティー・プロフェッサー

b. 東京国際文芸フェスティバル

日本財団は、日本をニューヨーク、ロンドン、パリと並ぶ世界の文芸の拠点のひとつとして位置づけるため、海外の作家や作品を日本国内に紹介する「READ JAPAN プロジェクト」を実施しているが、文芸拠点としての日本の文学・文化を世界にアピールするショーケースとして、日本と世界の出版・文芸業界の橋渡し役となるための「文芸フェスティバル」を2012年度から開催することになった。

会館は、日本理解の促進、翻訳など、会館のミッションと合致するテーマを扱った以下の2つのセッションを共催した。

開催日	テーマ	講師
2013年 3月2日	翻訳について語るときに我々の語ること	スピーカー： 小野 正嗣／小説家、比較文学者 マイケル・エメリック／翻訳家 レクシー・ブルーム／ランダムハウス社 編集主任 モデレーター： 柴田 元幸／東京大学教授、翻訳家
	いつも旅の中	スピーカー： 角田光代／作家 ピコ・アイヤー／作家 ジェフ・ダイヤー／作家 モデレーター： ジョン・フリーマン／グラント誌編集長

c. ポストカード展 『Postcards from Japan— A Message from Tohoku Artists』
および『Postcards to Japan』

震災に対する記憶を風化させないように、本プログラムでは、東日本大震災から2年がたった2013年3月に、東北のアーティストによる22作品のポストカード・アートの展示を行った。

東日本大震災の際、電力供給が途絶え、家族や友人との連絡手段が失われた多くの方が、葉書・ポストカードの便りによって、それぞれの無事を確認した。そのことに感銘を受けた岩手県とエジンバラ（スコットランド）を拠点に活動する彫刻家片桐宏典氏とケイト・トムソン氏は、東北のアーティストたちに作品制作を呼びかけて本企画が実現した。本プログラムは、その巡回展の一部として片桐氏とトムソン氏のご協力をいただき開催した。また、海外のアーティストによる返答作品『Postcards to Japan』も同時に展示した。

開催時期：2013年3月2日～15日

場所：会館ロビー

d. 出版

(1) 公益信託長銀国際ライブラリー

2000年7月に設定された「公益信託長銀国際ライブラリー基金」（前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として事業を継承）

を活用し、政治・経済・社会・文化などの日本人著作を英訳・刊行し、広く内外に配布、国際社会の中での日本理解の増進に資することを目的としている。

毎年2冊を選定し、翻訳・編集の上、内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外2,800カ所、国内700カ所へ無償配布している。2012年度は、以下を実施した。

【配布】

開米潤著 『松本重治伝：最後のリベラリスト』（藤原書店、2009年刊）の英語版（刊行は2011年度）

Matsumoto Shigeharu: Bearing Witness by Kaimai Jun

改編・翻訳者：Waku Miller

【刊行・配布】

渡辺浩著 『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010年刊）の英語版

A History of Japanese Political Thought, 1600–1901 by Watanabe Hiroshi

翻訳者：David Noble

【翻訳・編集・刊行】

田中優子著 『布のちから：江戸から現在へ』（朝日新聞出版、2010年刊）の英語版（配布は2013年度）

The Power of the Weave: The Hidden Meanings of Cloth by Tanaka Yūko

翻訳者：Geraldine Harcourt

【翻訳・編集】

若松英輔著 『井筒俊彦：叡智の哲学』（慶應義塾大学出版会、2011年刊）の英語版（刊行・配布は2013年度）

Izutsu Toshihiko: In Search of Wisdom [tentative] by Wakamatsu Eisuke

翻訳者：Jean Connell Hoff

(2) アイハウス・プレス

国際文化会館の事業の成果を広く国内外に発信するために、2006年度

から始めた出版事業。会館の事業のほか、日本人による名著を英訳刊行し、海外における日本理解の増進も目的として実施している。

2012年度は、以下の2冊を刊行した。

The First Fifty-five Years of the International House of Japan: Genesis, Evolution, Challenges, and Renewal by Katō Mikio
(国際文化会館英文55年史)

A History of Japanese Political Thought, 1600–1901 by Watanabe Hiroshi

翻訳者：David Noble

渡辺浩著 『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010年刊）の英語版

(3) 定期・不定期刊行物

各年度の事業内容をまとめた年次報告書（『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*）と、講演録などを収録して会館の活動を伝える機関誌（『国際文化会館会報』、*IHJ Bulletin*、年2回刊）を刊行、会員ならびに関係機関に送付した。2012年度の刊行物は、以下の通りである。

A) 英文年次報告書 *Annual Report 57*（2011年度事業報告、8月発行）

B) 和文年次報告書 『国際文化会館の歩み 57』（2011年度事業報告、8月発行）

C) *IHJ Bulletin*（“ ”内は主な掲載記事）

➤ Vol. 32, No. 1（6月発行）

“The Challenge of Leadership in a Rising Asia” Brahma Chellaney

“Dialogue of Civilization, Circa 2012” Ashis Nandy

Interview: “A Struggle That Goes Beyond Borders : The Digital Archive of Japan’s 2011 Disaster” Andrew Gordon

“Staying Power : Lessons for Japan” Michael A. Cusumano

“Transpacific Field of Dreams” Sayuri Guthrie Shimizu

“Japan’s Three Script Language and Our Nation’s Role in the World”
Ishikawa Kyuyoh

➤ Vol. 32, No. 2 (12月発行)

“Why Does India Matter?” Kondō Masanori

“Contemporary India for Business Persons”

E. Sakakibara, T. Shimada, C. Takenaka, T. Fujii, M. Kojima,
S. Sinha, T. Horimoto

“Disaster and Language, Language and Disaster”

Azuma Hiroki, Hirano Keiichiro, Kawamura Minato, Shiraishi Saya

Interview: Hamada Junichi “Shifting to Autumn Enrollment :

A Change in Global Awareness”

“Built to Break: The World Industrial System in the New Era of
Monopoly” Barry C. Lynn

“Karuizawa Dreamscape” Tom Haar

“Bhutan as a Model for the World in Gross National Happiness”

Kusago Takayoshi

“Ishimoto Yasuhiro and Postwar Modernist Art”

Nakamori Yasufumi

D) 『国際文化会館会報』(「 」内は主な掲載記事)

➤ Vol. 23, No. 1 (6月発行)

「成長するアジアにおけるリーダーシップの課題」

ブラーマ・チェラニー

「文明の対話, Circa2012」 アシシュ・ナンディ

インタビュー：アンドルー・ゴードン

「国境を越えた挑戦：震災のデジタル・アーカイブ」

「太平洋を越えたフィールド・オブ・ドリームス」 清水 さゆり

「君臨する企業の6つの法則ー日本へのレッスンー」

マイケル・A・クスマノ

「三文字言語・日本語の国際的役割」 石川 九楊

➤ Vol. 23, No. 2 (12月発行)

「なぜいま、インドか」 近藤 正規

「ビジネスパーソンのための、現代インド講座」

榊原 英資、島田 卓、竹中 千春、藤井 毅、小島 眞、

サンジーヴ・スィンハ、堀本 武功

「災害と言葉 そして言葉と災害」

東 浩紀、平野 啓一郎、星加 良司、川村 湊、白石 さや

インタビュー：濱田 純一

「大学の秋入学移行はグローバル社会に対する意識改革」

「新たな独占の時代における世界の産業システム」バリー・C・リン

「夢の風景：軽井沢」トム・ハール

「ブータンから世界に広がる GNH」草郷 孝好

「写真家 石元泰博と戦後モダニズム芸術」中森 康文

4. 調査研究プロジェクト

a. 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い人々に参加いただき、毎回ゲストを迎え、インフォーマルな雰囲気の中で懇談を深めるもの。調査研究プロジェクトとして試験的に行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定している。使用言語は日本語または英語。2012年度は以下の4回の懇談会を開催した。

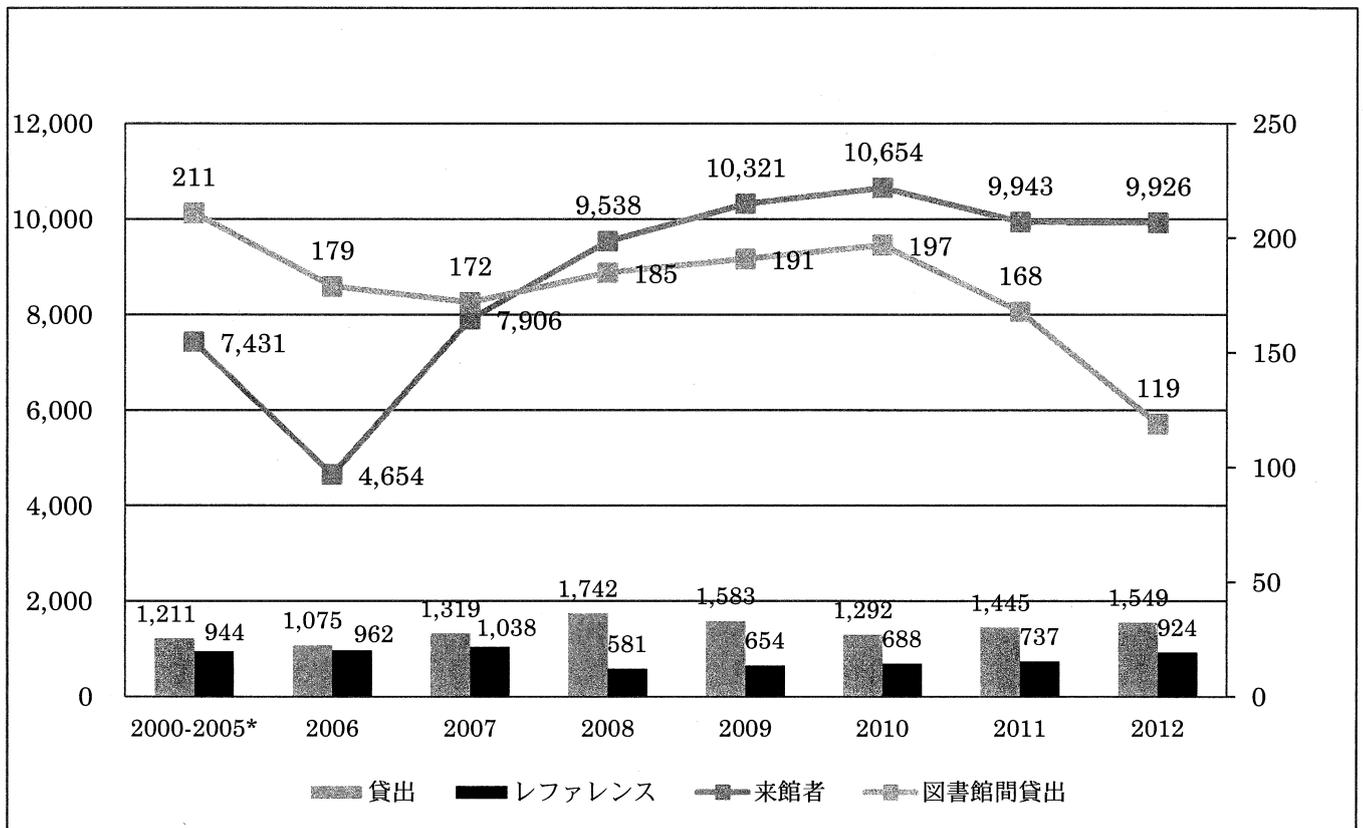
開催日	テーマ	講師
5月14日	日本の領土問題	東郷 和彦／京都産業大学世界問題研究所所長
7月4日	アセアンの日本の安全保障	山田 滝雄／外務省国際情報統括官組織参事官
9月24日	Japan and the United States in an Evolving Asia-Pacific	カート・トン／米国大使館首席公使
2013年 1月30日	日本とインドの二国間関係	ディーパ・ゴパラン・ワドワ／駐日インド大使

5. 図書室

a. 通常業務

(1) 図書室サービス 2000年～2012年

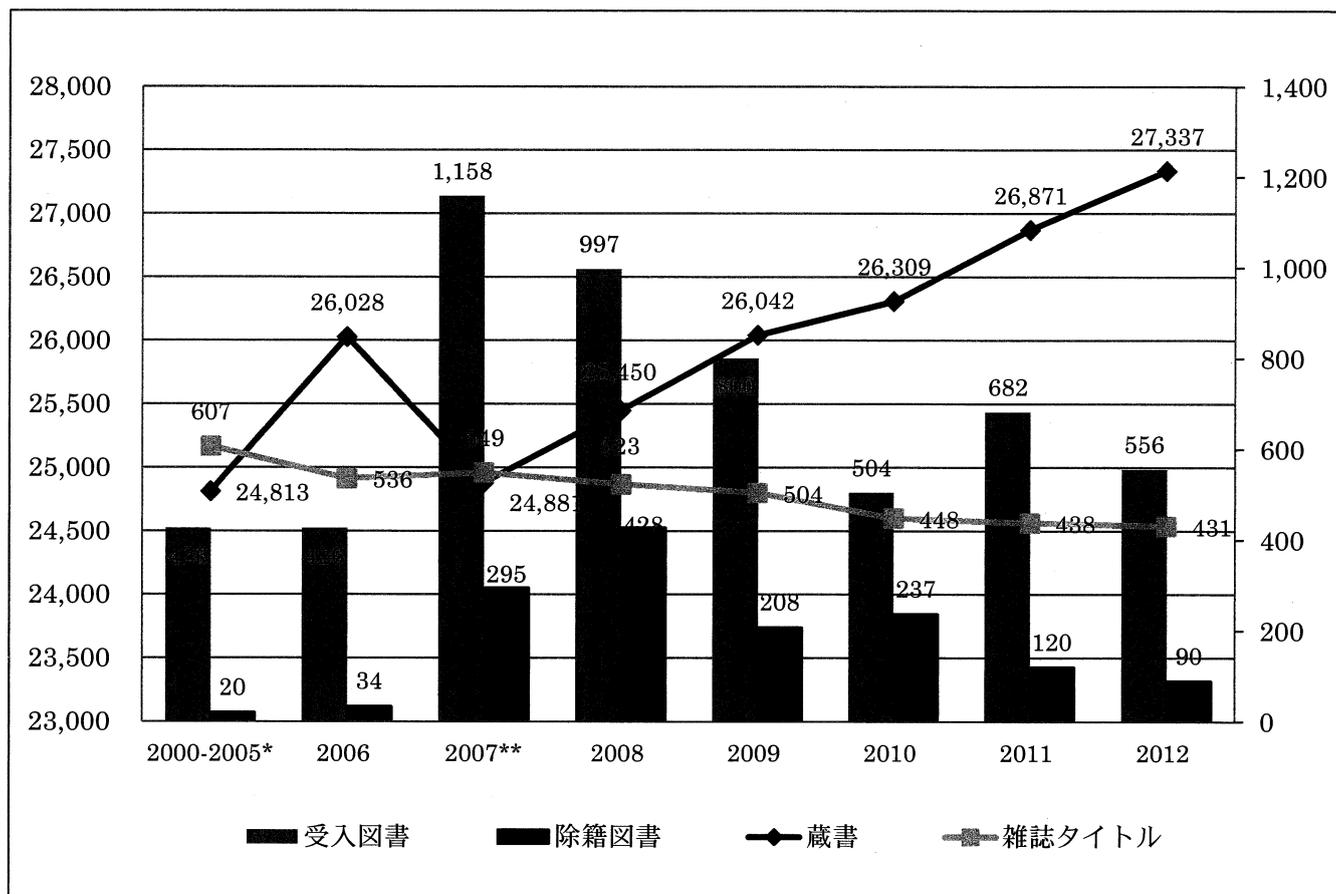
来館者数は前年度と比較して変化はみられなかったが、資料の貸し出しとレファレンスが増加した。このことは利用者の情報サービスに対する需要の高まりを示したといえる。



* 2000～2005年度の平均。

(2) 蔵書管理 2000年～2012年

雑誌管理業務が、紙媒体での管理から図書館システムへ移行する作業が完了した（一部タイトル除く）。



* 2000～2005年度の平均。

** 2007年度以降は、図書館システムのLIMEDIOにより蔵書数を集計。

VII. 国際文化会館の運営

2012年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、11,515名の宿泊客を迎えた。このうち外国人の利用が60%を超え、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化、知識人の方々が集う施設としての特色をよく発揮している。

会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）

- 会館創立60周年記念宿泊招待券（有効期間：2012年1月～12月）
- 夏季宿泊優待券（有効期間：7月～8月）
- 冬季宿泊優待券（有効期間：12月～2013年2月）

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は29,128名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、32,208名に利用された。

宴会キャンペーン

- サマー・パーティープラン（7月1日～9月15日）
- ミーティング&ランチ・プラン（10月～継続実施中）
- ウィンター&スプリング・パーティープラン（12月14日～2013年3月31日）

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、58,155名に利用された。また主食堂のレストラン『SAKURA』は、15,166名の利用があった。

ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント

- お花見ちらし（2012年3月17日～4月15日）
- お花見ローストビーフセット（2012年3月24日～4月8日）
- ガーデン・ビアセット（7月21日～8月31日）
- ハロウィーンディナー（10月29日～31日）
- クリスマスディナー（12月22日～25日）
- 年越し蕎麦（12月31日）
- おしるこ（2013年1月1日～3日）
- お花見ちらし（2013年3月20日～4月7日）
- お花見ローストビーフセット（2013年3月23日～4月7日）

レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント

- お花見弁当（2012年3月24日～4月8日）
- 夜桜会席（2012年3月24日～4月8日）
- 清涼会席（7月6日～16日）
- 秋の味覚特選メニュー（10月19日～10月28日）
- クリスマス特別メニュー（12月22日～12月25日）
- おせち料理（2013年1月1日～3日）
- 新春会席（2013年1月1日～6日）
- お花見弁当（2013年3月23日～4月7日）
- 夜桜会席（2013年3月23日～4月7日）

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、134,657名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会（4月2日～3日 参加者 216名）
- ガーデン・ビアパーティー（7月27日 参加者 177名）
- 国際文化会館創立 60 周年記念晩餐会
特別ゲスト：ドナルド・キーン氏（11月13日 参加者97名）
故十二代目市川團十郎丈（11月14日 参加者94名）
- ワインパーティー（11月15日 参加者 150名）
- クリスマス晩餐会（12月23日～25日 参加者 174名）

いずれの日も会員の皆様および各国大使、会館にゆかりのある方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

サービス活動実績

研究個室

自 2012年 4月 1日

至 2013年 3月 31日

	2011年度	2012年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	9,397	11,515	2,118	122.5%
一日平均宿泊者数	25.7	31.5	5.9	122.9%
外 国 人 比 率	64.0%	60.8%	-3.2%	95.0%
稼 働 率	49.1%	59.5%	10.4%	121.2%
収 入 額	¥87,995,317	¥101,113,018	¥13,117,701	114.9%
一日平均収入額	¥240,424	¥277,022	¥36,598	115.2%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2012年 4月 1日

至 2013年 3月 31日

		2011年度	2012年度	増減	前年比
セミナー室	収入額	¥49,108,473	¥53,045,022	¥3,936,549	108.0%
	客数	27,809	29,128	1,319	104.7%
	客単価	¥1,766	¥1,821	¥55	103.1%
会議室	収入額	¥159,958,733	¥169,721,785	¥9,763,052	106.1%
	客数	20,681	23,611	2,930	114.2%
	客単価	¥7,735	¥7,188	¥-546	92.9%
婚礼手数料	収入額	¥87,728,207	¥114,079,328	¥26,351,121	130.0%
	客数	6,812	8,597	1,785	126.2%
	客単価	¥12,878	¥13,270	¥391	103.0%
レストラン	収入額	¥79,318,294	¥85,974,124	¥6,655,830	108.4%
	客数	14,166	15,166	1,000	107.1%
	客単価	¥5,599	¥5,669	¥70	101.2%
ラウンジ	収入額	¥87,291,776	¥94,803,977	¥7,512,201	108.6%
	客数	53,559	58,155	4,596	108.6%
	客単価	¥1,630	¥1,630	¥0	100.0%
合計	収入額	¥463,405,483	¥517,624,236	¥54,218,753	111.7%
	客数	123,027	134,657	11,630	109.5%
	客単価	¥3,767	¥3,844	¥77	102.1%
一日平均	収入額	¥1,266,135	¥1,418,149	¥152,013	112.0%
	客数	336	369	33	109.8%